

～育毛理論に急展開～

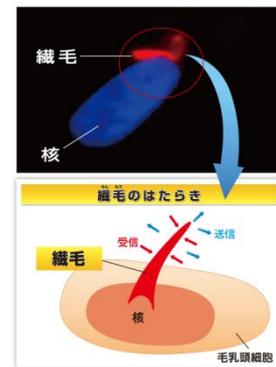
サラヴィオ化粧品 毛乳頭細胞による新規育毛活性化機構を提唱

日本皮膚外科学会 第27回日本皮膚外科学会総会・学術集会にて発表

ヘアケア、スキンケアに関する研究開発、および、総合サービスを提供する株式会社サラヴィオ化粧品（本社：大分県別府市 代表取締役社長：濱田拓也）は単離培養した毛乳頭細胞の繊毛（せんもう）の観察・定量化に成功しました。更に、繊毛の長さを制御した実験系を駆使して発毛メカニズムにおける繊毛の新しい役割を発見しました。この研究成果を、第27回日本皮膚外科学会総会・学術集会＜2012年9月1日（土）～2日（日）、盛岡市、岩手県民会館＞において発表いたしました。

【毛乳頭細胞と繊毛について】

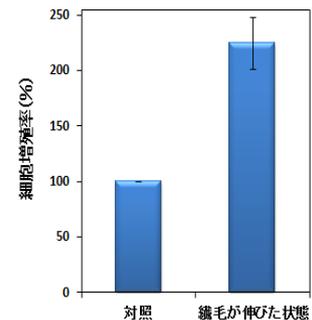
毛髪のヘアサイクル（成長期 - 退行期 - 休止期）は毛包細胞間のシグナル伝達によって支配されている。毛乳頭細胞は、発毛シグナルの司令塔と言われ、常にヘアケア研究の中心的存在である。毛乳頭細胞におけるシグナルの送受信に深く関与しているのが繊毛（せんもう）であると考えられており、世界の注目を集めている。



<発毛シグナルを担う繊毛>

【研究成果の概要】

- 単離培養した毛乳頭細胞の繊毛の蛍光顕微鏡観察に成功
- 繊毛長の定量 ( $2.2 \pm 1.2 \mu\text{m}$ ) に成功
- 繊毛長の制御に成功
- 繊毛によるケラチノサイト（上皮系細胞）の分裂増強作用を発見
- 繊毛による線維芽細胞（間葉系細胞）の分裂増強作用を発見



<ケラチノサイトの増殖活性>

お問い合わせ

株式会社サラヴィオ化粧品

〒大分県別府市大字鶴見 1356-6

TEL:0977-75-8575

HP: <http://www.saravio.jp>